

本時のねらい

・「構成美の要素」について学び、どのような秩序があるのか考える。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・ペイントソフトで描くことにより、構成美について学んだ知識を、体験的に学習することができる。
- ・デジタルでは、容易に形や色を塗れるので、絵具や色鉛筆などのアナログで色塗りをするよりも作業時間を短縮することができる。
- ・紙面では、特に「色塗り」一つとっても「塗る技能」が必要になるが、ペイントの塗りつぶし機能では、色彩感覚のみを磨くことができる。生徒が本当に表現したかった色を再現する活動にのみ専念することができる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・プロジェクター ・タブレット端末 ・Microsoft Teams ・ペイント 3D ・まなびポケットの「発表ノート」機能

本時の展開（全 9 時間計画：1 時間目）

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10分)	○本時の流れの説明 ・学習内容と端末操作の確認をする。	・大型ディスプレイで視覚的に説明する。 ・まなびポケットの発表ノートの操作や、配布データの確認を行う。
展開 (35分)	○「構成美の要素」について考える。 ・構成美の要素を表した 8 つの絵（対称、律動、繰り返し、階調、対比・対立、比率・割合、協調、つり合い）とそれぞれの名称・意味を書いた文を貼り付けてあるデータを配付し、絵にあてはまるものを考えて並べる。 ・作業ができたら、発表ノートで提出する。 ・タブレットで画面を共有し、他生徒の考えを確認する。 ○ペイント 3D ソフトを使って、「構成美の要素」の 1 つを選んで描く。 ・作業内容の説明、描き方の例を見た後に作成したデータを提出する。	・まなびポケットの「発表ノート」機能では、画面上でイラストを動かしながら、視覚的に理解を促すことができる。 ・黒板のスクリーンに他の生徒の取組みを提示し、共有する。 ・ペイント 3D ソフトで描き方の例を見せることで作業のイメージをもたせる。 ・作業データは Microsoft Teams 内のファイルに保存する。
まとめ (5分)	○まとめ ・「構成美の要素」について、振り返りシートで確認する。	

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



写真 1: 発表ノートで、画像にあてはまる名称・説明文を並べている場面



写真 2: 学んだ構成美の要素をペイント 3D ソフトを使って描いている場面

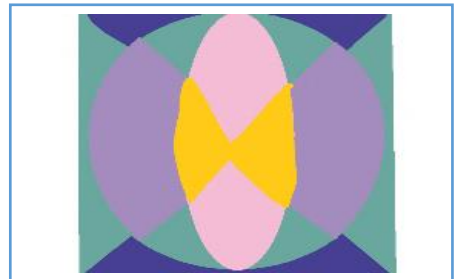


写真 3: 生徒の作品

児童生徒の反応や変容

- ・タブレット端末を使った作業では、集中して取り組んでいた。発表ノートでは作業もスムーズにできていた。
- ・ペイント 3D ソフトでは、個々でツールの使い方や塗り方など技術的な差はあるが、デジタルで容易に色塗りができるので、生徒も表現方法のひとつとして捉えて取り組むことができていた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・授業者自身のまなびポケットや発表ノートの操作に慣れ、生徒全体への画面共有の仕方や授業のどのタイミングで使うのかなど、目的に応じた活用をしていくことが必要だと感じた。